

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	おきなわインターナショナルデイサービス銘苅		
○保護者評価実施期間	令和 8年 3月 1日	～	令和 8年 3月 17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数)
○従業者評価実施期間	令和 8年 3月 1日	～	令和 8年 3月 17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 3月 17日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・職員間の情報や意見交換を積極的に行い、風通しの良い職場環境やチーム作りを行っている点。	・「朝礼、昼礼、終礼等のミーティング」「グループLINEの活用」等を通して、情報共有やアイデア共有を行っています。 ・管理者との定期的な面談を行い、職員の意見や考えを聞き取る機会を設けています。 ・日々の業務や活動計画をチーム全体もしくは複数名の小グループで行っています。	・定期的な業務見直しを行うことで、個人単位ではなくチーム単位で支援や業務に取り組む雰囲気を作ります。 ・全職員が様々な意見等について発言しやすい雰囲気作りにより一層取り組んでまいります。 ・個人の面談だけでなく、複数名グループでの意見共有や課題解決モデル構築に取り組んでまいります。
2	・保育士や児童指導員、運動療育支援員及び理学療法士など、専門的な知識や多角的視点を持つ職員を配置し、支援体制を整えている点。	・特に気になる児童や発達に課題のある子どもへの対応方法について、定期的に検討会や意見交換を行い、専門的かつ多角的視点から対応できるよう職員の資質向上に取り組んでいます。	・事業所内で検討会や意見交換等を定期的に開催することに加え、より質の高い支援を行うために研修受講や勉強会等を定期的に開催を検討しています。 ・職員の資質向上や支援アプローチの質を向上のため、法人内の専門職を通じた勉強会や研修開催を検討しています。 ・経験差に影響されない発達段階に応じた支援に必要な視点や知識を習得するための勉強会や研修を定期的に行うことを検討しています。
3	・室内や屋外活動、イベント等の充実、固定化しないよう工夫されている所。	・地域性や利用児童の特性に応じた5領域支援を、屋内屋外等様々な場所や内容で実施できるよう工夫しています。 ・特定の曜日や児童だけに活動内容や活動場所が偏らないように、毎月活動スケジュールを見直ししています。	・地域のイベントや地域の子どもたちと触れ合える場での活動を増やせるよう、取り組んでまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者同士が交流する場や実際の支援現場を見学する場の提供、家族支援プログラムやご家族向けの研修会や情報提供の機会が不足している点。	・保護者会等の開催による保護者同士の交流の機会作り、療育参観などの場の提供が不足しています。 ・保護者向けの家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)やご家族等が参加できる研修会や情報提供の機会が不足しています。	・次年度以降、1年に1回以上療育参観もしくは保護者交流機会を設けます。また、ペアレント・トレーニング等の職員向け研修や勉強会の機会を設け、より深い家族支援が提供できるよう対応を検討します。
2	・非常時の対応やマニュアルなど、保護者や職員への周知・説明が十分でない点。	・マニュアルの整備は完了しており、年に2回の避難訓練等を行い、実際にオフィシャルLINE等を用いて保護者や職員へ発信しておりますが、周知や説明等が十分でない可能性があります。	・保護者向けに、公式LINEだけでなく資料の配布等で周知する機会を設けてまいります。また、職員全体で非常時の対策を確認するための時間を確保し、避難訓練以外でも対応や手順などの共通理解を深める機会を設けます。 ・マニュアル等をご家族や職員等様々な方の目に触れ、手に取れるような場所へ設置します。
3	・保育施設や認定こども園などとの関わりや、地域の子供たちと触れ合う機会が限られている所。	・事業所が取り組んでいる療育内容や取り組み等について、保育所や認定こども園への周知が不足している部分があると考えられます。	・日頃の送迎引継ぎの際だけでなく、モニタリングや担当者会議等を活用して、事業所としての取り組みや支援方法について情報を共有しながら、保育所や認定こども園などとの連携を強化し、交流の場を設けることを検討します。